

## 令和元年度第34回福島県特別支援教育センター研究発表会 各教科の指導の充実に向けた取組を発表

令和元年12月6日（金）、福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」（三春町）において、令和元年度第34回福島県特別支援教育センター研究発表会を開催しました。県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、教育委員会の職員等、合わせて約240名の参加がありました。

研究発表会では、本センター教育研究「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実（二年次）」の研究結果の発表を行いました。研究発表では、本センターの取組や研究推進モデル校のあぶくま支援学校、石川支援学校の実践について発表しました。また、地区協力校の大笹生支援学校、西郷支援学校、猪苗代支援学校、いわき支援学校、富岡支援学校を含めた研究協力校7校のポスター発表を行いました。

本号では、研究発表会で発表した内容についてご紹介します。



教育研究の研究発表

研究発表の内容は中面をご覧ください 



研究協力校のポスター発表

地区協力校の取組は裏面をご覧ください 

### 参加者の声

- ・学習指導要領の教科の内容をしっかりと読んで、授業づくりに生かしていきたいと思いました。
- ・学校での実践、取組を整理し、見直すことが大切であること、学習指導要領を確認し、学びをつないでいく必要があることを再確認しました。
- ・各教科等を合わせた指導の中で、どの教科の内容を、どのように学ぶのか、根拠を明確にして意識的に指導することが大切だと改めて感じました。
- ・ポスター発表では、新学習指導要領を踏まえた各学校の具体的な取組や研究で活用したシート等が参考になりました。



# 研究推進モデル校の取組

## あぶくま支援学校の実践

### ～新学習指導要領を踏まえた「学びの履歴」シートを活用しての授業づくり～

あぶくま支援学校は、一人一人に応じた各教科の学習指導の充実を図ることを目指し、「学びの履歴」シートを活用した授業づくりの実践を発表しました。授業の目標設定や一人一人の具体的な指導内容の設定をするためには、「学びの履歴」シートのチェックだけでは十分でなく、より詳細な実態把握が必要なことが挙げられました。そこで、「学びの履歴」シートで各教科の段階や内容を把握した上で、補足資料を作成・活用し、児童生徒の実態把握や習得状況をさらに詳細に把握することで授業づくりにつなげた実践事例を報告しました。

また、教育課程の工夫・改善として、履修すべき各教科等の授業時数を明確にした上で、教科別と各教科等を合わせて指導する場合の時数を配当する事例を紹介しました。

#### 授業づくり I

小学部 6年 体育科「みんなではしろう」6学年 合同学習 2・4名



- ◆体育科 1～3段階の児童が学ぶ集団
- ◆題材「走の運動」の「直線を走る」、「折り返し走」、「トラック走」等の実態が見えない
- ◆何を目標にし、何を具体的に指導内容に設定するか分からない

補足資料の作成  
 (「走の運動」に関する実態把握資料)  
 ↓  
 活用

「走の運動」等について  
 詳細な実態把握が可能  
 ↓  
 目標や内容の設定へ

#### 授業づくり II

高等部 2年 数学科「長さをはかろう」通常の学級 6名



- ◆「数と計算」、「図形」、「測定・変化と関係」、「データの活用」の4領域 → 活用しにくい
- ◆『学びの履歴』シートにある「長さの単位を知る」、「測定の意味を理解すること」からは、具体的な生徒の課題が見えない

学習指導要領の確認  
 ↓  
 補足資料・問題の作成  
 (「測定」のみの内容表へ改良)

「測定」の内容について  
 習得状況の把握が可能  
 ↓  
 目標や内容の設定へ

令和元年度第34回特別支援教育センター研究発表会教育研究発表資料より

## 石川支援学校の実践

### ～児童生徒が何を学び何が身に付いたのかが明確になる授業づくり～

石川支援学校では、「学びの履歴」シートと特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に示されている「流れ図」からの実態把握を基に指導目標の設定、指導内容の選定を行うことで、新学習指導要領を踏まえた授業づくりを進めることができたという成果を報告しました。学習指導案様式を工夫し、育てたい資質・能力の三つの柱で目標を設定し、「段階的な目標」を明確にした指導計画を作成するなどの改善を図りました。

また、各教科等を合わせた指導においても、実態に応じて各教科の目標や内容から授業を構成し、主として指導する教科に絞って単元目標を整理しました。主として指導する教科以外の関連する教科についても評価をする必要があることから、その関連する教科の目標も指導計画に明記しました。指導の根拠や意図を明確にした授業実践の取組について紹介しました。

#### 見直しのポイント

新学習指導要領を踏まえた授業を展開できるようにするための見直し

- ①各教科、自立活動双方からの実態把握
- ②3つの柱に基づいた指導目標の設定の仕方
- ③主体的・対話的で深い学びを促すための手立ての考え方
- ④段階的な目標を明確にした指導計画の考え方、書き方
- ⑤自立活動との関連を明確にした配慮事項

#### 生活単元学習「友達とアドベンチャーに行こう」

##### 単元の目標

|                  | 国語科  | 生活科   |
|------------------|--|---|
| (1) 知識及び技能       | ○教師が指示した言葉と、事物や事象との結び付きが分かり、指示された物を指示された場所に掛けることができる。<br>(国語科 2段階 言語の特徴や使い方に関する事項 (ア))   | ○誰と一緒にアドベンチャーに行くのかが分かり、ペアの友達と一緒に探検バッグを持つことができる。<br>(生活科 2段階 人との関わり)                             |
| (2) 思考力、判断力、表現力等 | ○教師の指示を聞き、誰に対する指示なのかを判断して、自分に対する指示に応じたり、友達に対しての指示は見守ったりすることができる。<br>(国語科 2段階 聞くこと・話すことイ) | ○一人では探検バッグを持っていないことに気づき、友達に探検バッグを持つまで待ったり、誘ったりして最後まで友達と一緒にアドベンチャーをすることができる。<br>(生活科 2段階 人との関わり) |
| (3) 学びに向かう力、人間性等 | ○教師の指示を聞き、指示された物を探そうとしたり、指示された場所に掛けようとする。<br>(国語科 2段階)                                   | ○友達と一緒にアドベンチャーに行くために、探検バッグを持とうとしたり、友達に働きかけようとする。<br>(生活科 2段階 人との関わり)                            |

令和元年度第34回特別支援教育センター研究発表会教育研究発表資料より

教育課程ごとの学年の年間指導計画一覧の標準例として「年間指導計画モデル」を作成しています。年間の指導内容を「見える化」することで、教員間で教育活動を共有するとともに、指導計画の改善を行っています。

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2 小学部通常(3-4年) 1 学年・科目名 1 学習時間 1 教科(科目)

| 行事等 | 学習目標   | 指導計画   | 評価計画   | 指導計画   | 評価計画   | 指導計画   | 評価計画   |
|-----|--|--|--|--|--|--|--|
| 1学期 | 1. 1学期の学習について、既習の生活の場面について述べる。<br>2. 1学期の学習について、自分の生活の場面について述べる。<br>3. 1学期の学習について、自分の生活の場面について述べる。 |

『年間指導計画モデルver.2』  
各学部・各学年・教育課程別にそれぞれのモデルがあり、モデルを基に各学年の年間指導計画一覧を作成しています。

# 地区協力校の取組 ～ポスター発表より～

※ポスター発表の内容の一部を抜粋して掲載しています。各校のポスターは、本センター内に掲示しています。お越しの際に、ぜひご覧ください。

## 西郷支援学校

### 単元のまとまりで指導と評価を考える

「学習活動展開案（単元展開案）」を工夫して、単元計画をつかむことができるようにしています。各教科等を合わせた指導では、評価する教科とその評価規準を明確にしています。

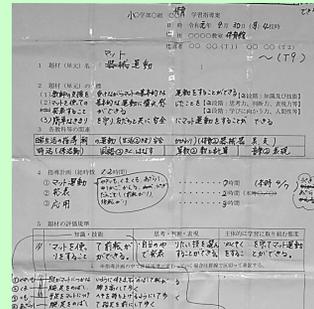
| 学習活動展開案(単元展開案)    |   |              |                                |
|-------------------|---|--------------|--------------------------------|
| 学年・学習グループ         | 学年  | 年 組(名)       | 通常の学習・連携校の学習                   |
| 教科/科目名            |   |              |                                |
| 指導者               |   |              |                                |
| 単元・題材名            |   |              | 児童生徒の生活上の経験や課題から、本単元を設定した教科の扱い |
| 単元目標              | (1).....することができる。【知識及び技能】<br>(2).....することができる。【思考力・判断力・表現力等】<br>(3).....しようとする。【学びに向かう力・人間性等】 |              |                                |
| 指導計画              | 月日  | 期            | 手立ての工夫                         |
| 1                 |   |              | 生活<br>工場<br>工場                 |
| 2                 |   |              |                                |
| 3                 |   |              |                                |
| 評価する教科<br>(知識・内容) | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等 | 主体的に学習に取り組む態度                  |
| 生活<br>工場<br>工場    |   |              |                                |

『学習活動展開案（単元展開案）』  
A4判1枚程度で単元計画をつかむことができるように様式を工夫しています。  
授業者間で、単元の評価規準や手立ての共有に活用しています。

## 猪苗代支援学校

### 授業改善に向けた授業研究会の工夫

事前研(P)→授業(D)→事後研(C)→改善策の実践(A)のサイクルに沿って丁寧に授業研究を行っています。新学習指導要領を踏まえた学習指導案を基に指導内容と目指す学びの姿を明確にした授業実践を進めています。



『事前研究会で使用した学習指導案のワークシート』  
育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って題材の目標を設定しています。  
指導計画と評価規準、個別の目標や手立てについて教員間で協議しています。

## いわき支援学校

### 一人一人の学びに焦点を当てた授業研究会

単元（題材）の目標、展開、評価規準、主体的・対話的で深い学びの手立てを明確にした学習指導案を基に事前研究会の協議を行っています。また、事後研究会では、個別のVTRを活用し、個別目標に基づいた学習評価や指導の改善策の検討を行っています。



『事後研究会』  
対象生徒を抽出し、個別目標に基づいた丁寧な学びの見取りをしています。また、少人数グループを作り、教員間で対話しながら学ぶ合う授業研究会を進めています。

## 富岡支援学校

### 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

授業改善の視点である主体的・対話的で深い学びについて、具体的な学びの姿を検討し、教員間で共有しながら手立ての工夫を行っています。校内研究では、一年次「主体的な学びの姿」、二年次「対話的な学びの姿」と焦点化しながら授業改善に取り組んでいます。

#### 「主体的な学びの姿」

- ・やりたい・できた・内容理解
- ・見通し・自分から・根気強く等
- (各研修グループで具体化)

#### 「対話的な学びの姿」

- ・友達同士で話し合って学ぶ
- ・先生とやりとりをして学ぶ
- ・周りの様子を見て学ぶ 等

#### 有効な手立てを教員間で共有

- 目標と評価 ○環境の整備 ○教材 ○見通し ○やりとり 等

次号（3月発行予定）では、教育研究の成果と課題を踏まえ、各教科の指導を充実させるためのポイントや今後に向けた課題等についてご紹介します。